

いの町史編さん室だより (No.18)

寒さが厳しいこの季節ですが、段々と春の気配も感じるようになってきました。

「いの町史編さん室だより」も18回目となりました。毎回、町史編さん作業で知り得たことや体験したことなどを町民の皆さんに紹介しています。10月の町の合併10周年を目標に「いの町史」の編さん作業を進め、町民の皆さんが参加する町史づくりを目指しています。町史編さんに役立つと思われる資料・写真などがあれば、是非ご連絡ください。それでは、今月は気象の話をどうぞ。

ちょっと気象の話

「この季節、花粉症に注意!」

気象予報士 松村 哲

くしゃみや鼻水、目のかゆみといった症状を伴う花粉症の方にとって2月～4月はやっかいな季節です。この時期の花粉はスギとヒノキがありますが、花粉を飛ばしているスギやヒノキの多くは戦後に植林され、50年以上経過したものがほとんどです。全国ではスギの面積がヒノキより多くなっていますが、高知県では意外なことに、スギがおよそ15万ヘクタールなのに対し、ヒノキはおよそ22万ヘクタールと、ヒノキの方が多くなっています。

高知県の花粉の飛散開始時期は、例年2月中旬ごろです。環境省は毎年12月下旬に翌年春の花粉の飛散量を前年の夏の天気をもとに予測しています。夏の天気が、▼日照時間が多い▼気温が高い▼降水量が少ないという3つの条件が揃うと、雄花が数多く生長するため、翌年の春に飛散する花粉の量が多くなると予測されます。

花粉にはスギとヒノキがあることを述べましたが、花粉の飛散傾向にも2回のピークがあることが知られています。一つ目はスギ花粉による2月下旬から3月上旬のピーク。もう一つはヒノキ花粉に伴う3月下旬ごろのピークです。この2つのピークをラクダのコブに見立てて「フタコブラクダ型」と呼んだりします。

花粉がよく飛ぶ「気象条件」があります、注意しておきましょう。

①よく晴れた日

晴れて空気が乾いていると増大し、曇りや雨で湿度が80%以上になると、ほとんど飛ばなくなります。

②雨の降った翌日

飛散しなかった花粉が持ち越され、翌日に飛散量が増えます。

③風が強い日

風が強いとより遠くに花粉が飛散し、都市部では地面に落ちた花粉が再び巻き上がります。

以上から、もっとも花粉の飛散量が多くなる日は、「前日に雨が降り、翌日は風の強い晴天日」となります。高知県ではこの季節よくある天気ですので、天気予報にも注意したいですね。

問い合わせ・連絡先

社会教育課 町史編さん室 (内線 31)
☎ 893 - 2012 ☎ 893 - 2013

いろんな情報
をお待ちして
います。



いの警察署からのお知らせ



いの警察署 ☎ 893-1234

安全の第一歩は、シートベルトの着用から

いくら自分が安全運転をしていても、避けきれない事故もあります。事故時の衝撃は手足では支えきれず、シートベルトを着用していない場合、ケガの程度も着用時と比べて重くなります。シートベルトは交通事故に遭った場合に被害を軽減する効果があるので、車に乗ったら全ての座席で正しく着用しましょう。

○車内での二次衝突を防止・軽減する

事故による乗員の死傷のほとんどは、衝突の衝撃で座席から投げ出され、ハンドルやフロントガラスなどに衝突する「二次衝突」によるものです。

○車外放出を防止する

衝突のはずみで、ドアが開いたり、ガラスが割れたとき、車外に放出されるのを防ぎます。

6歳未満の子どもを車に乗せる場合には必ずチャイルドシートを使用しましょう。

後部座席で非着用だと…

自分が被害に遭うだけでなく、前席の乗員を押しつぶすなど重大な傷害を与える危険があります。



「自然災害に備えよう!!」

洪水、土砂災害、高潮、地震、津波、火山噴火、豪雪…日本にいる以上、様々な自然災害に遭遇します。人は「自分が災害に巻き込まれる」とはなかなか考えられないもので

- ・ 警報は出ていたが、これまでも大丈夫だった
- ・ 周りも逃げていないので大丈夫だろう

というように、「根拠も無く、自分は安全」と考えてしまいがちです。

巻き込まれてから「まさか、起きると思わなかった」とならないよう、自然に対して謙虚な姿勢で、いつでも心構えをしておくことが大切です。

◎何よりもまず、自分自身を守る行動を!

- 災害が事前に予想される場合は、早めに避難支援(特に、お年寄りなど災害時要援護者の皆さんの誘導)などを完了することが重要です。時間的余裕がない場合は絶対に無理な行動はしないでください。
- 自分の身に危険が予想される場合は、逃げてください。逃げる姿を見せることで、住民の皆さんも危機感を持ち、自らの命を守れば、その後の活動で多くの命を救うことができます。